

— 自由民権運動の簡単な歴史 —

不平士族の反乱などから西南戦争を経て、以降、言論による政治活動（藩閥政府に対する運動）が始まった。

土佐の立志社以降、全国で約 2,000 の結社が生まれたといわれる。

1881 (M14) 自由党が結成される。板垣退助、大井憲太郎、星亨（とおる）など。

立憲改進黨の大隈重信が政府から追放される（「明治14年の政変」）

「民撰議員設立の建白と立憲政体の樹立」

1880 (M13) 第4回の愛国社大会で国会開設期成同盟が結成され、上願書提出。

国会開設期成同盟の次回までに、それぞれ憲法見込案を“大日本国会期成有志公会”に持ち寄る事となり、その結果、1881 (M14) に

嚶鳴社の「嚶鳴社憲法草案」

交詢社の「私擬憲法法案」(4月)

立志社の「日本憲法見込案」(5月)

後の1968年に発見された千葉卓三郎の「五日市憲法」(6月)

植木枝盛の「東洋大日本国国憲按」(8月)

などが起草された。その数、69 (40数編確認) とも100とも云われる。

藩閥明治政府は、「新聞紙条例」、「集会条例」、「保安条例」などで弾圧・取り締まりをする。

結局、1889 (明治22) 年に「大日本国憲法」が發布され、

1890 (明治23) 年に第1回総選挙が実施された。